

# 校内研修計画

山梨市立日川小学校

## 1 本校の課題

全国学力学習状況調査や県学力把握調査の結果から、本校の児童たちは、基礎基本の定着が十分でないという実態が明らかになった。活用学習においてもその影響が見られ、自分の考えを書いたり伝えたりすることに苦手意識をもっている傾向がある。そのため、無回答率が高いという結果が出ている。また、昨年度の全国学力学習状況調査の結果から、平日による宿題以外の家庭学習の時間が全国や県と比べると少ないことが明らかになった。これらのことから、知識や技能の確実な定着と自分の考えを表現すること、そして家庭学習の習慣化に本校の課題が見られる。

## 2 研究主題

自ら学ぶ子どもを育てる授業づくり  
～算数科における授業と家庭学習のサイクル化を目指して～

## 3 主題設定の理由

本校では、これまで活用学習と学級力向上プロジェクトの二本立てで研究を積み重ねてきた。昨年度の研究では算数科だけでなく国語科での活用学習にも挑み、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用して、自分の考えを書く活動を行った。また、授業を構想するにあたって、授業を活性化させる手立ての工夫や一時間ごとのめあての明確化なども研究を行った。これらの取組の成果として、授業に対する児童の意識が高まるとともに、自分の考えを整理して論述することが少しずつ出来るようになってきたことが挙げられる。

しかし、昨年度の全国学力学習状況調査の結果から、活用の内容であるB問題よりA問題で出される基礎的・基本的の内容の方が本校の児童には定着していない現状が明らかとなった。そして、児童質問紙の集計結果からは、本校の児童は、学習意欲はあっても、家庭学習の習慣化に課題があるという結果が出ている

そこで、児童の学力向上をめざすためには、基礎的・基本的な知識・技能を定着させることと家庭学習の習慣化を図ることが重要であると考えた。先述した二つの課題を克服させるためには、学校で学び方を学び、学習意欲を高めながら、家庭と連携した学習のサイクルを形成していくことが重要であると考えた。

そのため、今年度は、授業と家庭学習を連動させた授業づくりに研究の重きを置き、どのような課題を出すことで授業が充実し、さらに深い学びにつながるか、授業実践をとおして明らかにしていきたい。また、「やまなしスタンダード」に基づいた授業を意識し、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組める授業づくりをしていきたい。

このような実践を積み重ねていくことで、授業の充実や学びの高度化、授業・学びへの意欲的な参画、授業内容の定着などの効果が図れると考え、このテーマを設定した。

## 4 研究目標

自ら学ぶ子どもを育てる授業を創造するために、「やまなしスタンダード」を生かした、授業と家庭学習をどう関連付けるか研究し、その手立てを工夫する。

5 研究の具体的内容と方法

【内容】

- 授業実践・・・算数科において、家庭学習と連携した授業をどのように展開できるか、授業実践をとおして研究を行う。
- 学級力・・・児童同士、教師と児童間のリレーションシップが円滑になるように、学年の実態に合った取組（スマイルアクション）を行う。
- 特別支援・・・校内の学習会を行い、教職員間において指導観の共有化を図る。
- 朝学習、家庭学習（家庭学習ノート）、授業見学、ノート展示会などの取組を継続する。

【方法】

- 授業実践について
  - ・全体研究授業は2回
  - ・一人一実践
- 学級力向上
  - ・学級力アンケート、レーダーチャート、スマイルアクションを計画的に実施する。
  - ・全学級で情報交換をする（年1回）

年間校内研修計画

研究主任 小林 みずほ

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
自ら学ぶ子どもを育てる授業づくり～算数科における授業と家庭学習のサイクル化を目指して～	算数科 「四角形を調べよう」	小林 みずほ	4	6月	
	算数科 「角柱や円柱の体積の求め方を考えよう」	飯島 裕明	6	7月	
	算数科 「10よりおおきいかず」	武井 美奈子	1	7月	
	算数科 「かけ算のしかたを考えよう」	井上 甲斐	3	10月	
	全体研究授業 算数科 「単位量あたりの大きさ」	今澤 比呂樹	5	10月	○
	全体研究授業 算数科 「九九をつくろう」	竹川 きよみ	2	11月	○
	算数科 「九九をつくろう」	平塚 すみり	2 特支	12月	

\*上記の内容以外に、研究主題に関わる学習会を行うとともに、特別支援教育の学習会を計画している。